



基本理念
私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。
独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会 / 代表●大串文隆 / 住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号 / 電話 088-844-3111 / FAX 088-843-6385



新年を迎えて



NHO高知病院 院長
大串 文隆

新年明けましておめでとうございます。職員の皆さんも新しい気持ちで2015年を迎えられたことと思います。

昨年はソチのオリンピックやプロテニスなどスポーツの分野での日本選手の活躍、物理の分野では日本人研究者のノーベル賞受賞、医学分野では世界初のiPS細胞の再生医療への応用など明るい話題も多くありましたが、一方では様々な災害が日本各地でおこり多くの方が被害に遭われました。

また、4月には消費税8%がスタートし景気の動向が注目される年でもありました。毎年「今年の漢字」が発表されますが、2014年は「税」となり消費税を含む税の問題が最も高い国民の関心事であったと言えます。

高知病院においても昨年、様々な出来事がありましたが、皆さんのおかげで大きな問題もなく今年につなぐことができました。

2015年は高知病院にとって激動の年になりそうです。まず、2月に病院機能評価の審査を受けることとなっております。機能評価の受審は今回で3回目となりますが、評価される内容が少しずつ変化してきており、今まで以上に多職種との連携への取り組みが重要な評価対象となっているようです。従来から、病院あげて多職種によるチーム医療に取り組んできましたが、今回更に細部を検討し問題点を明確にして今後の医療に生かしていきたいと考えています。5年ごとの更新に

なりますが、時代とともに、病院の目指すべき目標が進化してきていますので、機能評価を受けることは病院組織を見直す良い機会といえます。

また、各部署の職員が課題解決のため横断的に協力することでチーム医療が更に推進され、そのことで患者さんに良質で安全な医療を提供できることが期待されます。職員の皆さんには日常業務に加えての仕事が増し、より多忙となることが危惧されますが力を合わせて認定に向かって頑張っていたいただきたいと思います。

また、4月には高知病院の所属する国立病院機構が非公務員型の独立行政法人に移行することが決定しており、このことで多くの経済的負担が病院に課されることは間違いのないようです。国立病院時代は国からの予算で運営されていましたが、独立行政法人化に伴って国からの補助金は激減し経営の改善を要求され、それに対し努力してきましたが今後それ以上の難題が課されそうです。職員の皆さんには高知病院が県市などから補助のある公的病院に比較すると厳しい状況にあることは理解していただけたと思います。このような状況下で病院を運営していくには皆さんと力を一つにして患者さんに選ばれる病院となることが重要ですし、そのためには質の高い医療を提供することが不可欠です。

これから多くの難題に直面するかと思いますが新たな気持ちで全ての職員の力を結集して2015年を乗り越えていきましょう。

年男 としおとこ



事務部長 大西 寛征

今年では5回目の未年を迎え60歳になります。2回目の未年を迎えた24歳で国立療養所香川小児病院に採用となってから36年間勤務したことになりますが、この間を振り返って思うことは、良い同僚、良い上司、良い部下に恵まれて仕事をする事ができたということです。

そこには未年生まれの関係があるのかも知れないと思い、改めて未年生まれの人の性格を調べて見ますと、「人情味のある温かみを感じさせる人。押しが弱く消極的と誤解される事も、でも本当は、芯が強く負けず嫌いの頑張り屋。几帳面で用心深いようでも、しっかり計画と観察をして、自分の利益は確保します。実は、交際上手で、交渉上手。見かけによらず、やり手が多いものの、ポイントを稼ぐよりマイナスを嫌うため、リスクを避けてチャンスを逃したり、保身に走る事も強い方です。」というものがありません。今まで意識してきたわけではありませんが、どれが私に当てはまるでしょうか？

次に、未の文字を使ったことわざを調べて見ますと、「羊質虎皮（ようしつこひ）」（実際は羊なのに虎の皮をかぶっているの意味から、外見だけは立派だが、それに実質が伴っていないことのたとえ。）がありました。

今までも、羊質虎皮にはならないようにしてきましたが、今後も継続するとともに人と人との関係を大切に日々努力して行きたいと思っておりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年女 としおんな



看護師 東出 奈々恵

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

12年前、息子の一歳の誕生日に育児休業から復帰し、NICUに配属となり今日に至っています。その息子もはや中学生となりました。

専門性の高いNICUで自分がやっていけるのか、ちいさなミスが命に直結する緊張感の中でのスタートでした。しかし、これまで「赤ちゃん中心の赤ちゃんにやさしい医療」を提供するという高橋小児科医長の考え方を目標とし、スタッフ一丸となってNICU看護に取り組んできました。みんなと一緒にだったからこれまで続けてこられたと思っています。現在NICUスタッフ9名、4階南病棟未熟児室スタッフと協力しあって業務を行っています。NICUほどチーム医療が求められるところはないのではないかと思います。いろいろな個性を持つ看護師がそれぞれの得意分野で力を発揮し、お互いにカバーしあって一つにまとまったすばらしいチームになっていると思います。NICUでは感動や、やりがいを感じる場面がたくさんあります。やはり一番は赤ちゃんが退院される時、長くお預かりしていた大切な宝物をやっと本来の居場所であるご両親のもとにお返しできた時は、ほっとした気持ちとともに達成感につつまれます。また、NICUを卒業した赤ちゃんが元気な姿で病棟を訪ねてくれることや、フォローアップ外来でご両親と一緒に赤ちゃんの成長を見させていただけることは私たちの大きな喜びになっています。

これからもNICU看護に誠実に向き合い、自分にできること、与えられた役割を果たせるよう日々努力していきたいと思っております。



臨床研修医 松本 大昌

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

高知病院で研修を始め、もうすぐで1年を迎えようとしています。時が経つのは本当に早いものですね。あっという間に時間は過ぎ去っていきましたが、周りの方々に助けてもらいながら日々充実した時間を過ごすことができました。しかし、今回「年男・年女」の原稿のお話を頂いたとき、暦を3周も生きているのかと思うとこれまた時の経つ早さを実感させられました。12年後の自分が立派に一人前の医師になっていることを期待し、4周目のスタートを切りたいと思います。未年の僕は、「羊」のように群れを成した集団行動を好みますので皆さんにご迷惑をかけながら、皆様と共に素敵なスタートダッシュができればと思っております。

知識、経験など不足しているものばかりですが、初心を忘れずに日々ゆっくと成長していきたいと思っておりますのでこれからもご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。



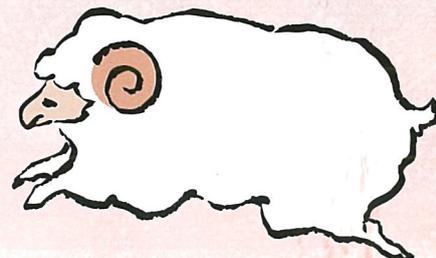
言語聴覚士 西村 愛美

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

私は、高知病院に就職して今年の4月から3年目になります。就職当時は、分からないことはばかりで不安を感じることも多くありましたが、上司や諸先生方多くの方に助けて頂き、少しずつではありますが、不安も軽減し臨床の楽しさを経験できるようになってきました。今年も感謝の気持ちを忘れず、上司、先生方のお話や勉強会、論文等新しい情報を積極的に取り入れ、より充実した臨床を行えるよう努めていきたいと思っております。

私生活の方では、高校時代まで続けていた新体操の審判に行けるようにしたいと思っております。新体操は競技人口が少なく、先輩方も高知から出てしまっている方が多いので、審判の数も少ない様なのですが、試合会場が遠く、車での移動が出来ないこともあり、なかなか行けていません。今年こそは運転免許を取得して後輩達の活躍を見に行きたいと思っております。

知識、経験ともまだまだ未熟で多くの方に御迷惑をおかけしていることと思っておりますが、日々成長していけるよう努力していきますので御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いたします。



「Journal of Spine Research第5巻10号日本脊椎
 インストゥルメンテーション学会特集号」に記事が掲載されました。

第22回日本脊椎インストゥルメンテーション 学会を主催して



副院長 篠原 一仁

2013年10月24日から10月26日にかけて、第22回日本脊椎インストゥルメンテーション学会を高知市のザ・クラウンパレス新阪急ホテルならびに高新文化ホールで開催させて頂きました。昨年度に引き続き、今年度も「SPINE WEEK JAPAN KOCHI 2013」の一学術学会として第47回日本側弯症学会ならびに第12回日本乳幼児側弯症研究会と共に合同開催といたしました。

学会のテーマは「未来への敢為」とし、未来に向けて脊椎インストゥルメンテーション手術の進歩に果敢に挑戦していくというメッセージを込めました。また、主題として(1)高齢者に対する手術適応と限界、(2)隣接椎間障害を含む術後合併症対策、(3)インストゥルメンテーション手術の新しい試みと工夫、の3点を取り上げました。上記3主題と一般口演およびポスター展示で演題を募集致しましたが、主題115題、一般口演117題およびポスター展示24題の総計256題と学術集会史上最多の御応募を頂きました。たくさんの演題応募を頂きましたが、会期と会場の関係から学会役員の皆様に査読をお願い

し、主題・主題関連66題を1会場、一般口演98題を1会場およびポスター展示・討論92題を1会場として開催いたしました。

本学会の記念講演でありますKumu Cloward Lecture には国立病院機構岡山医療センターの中原進之介先生に数多くの臨床経験から「腰椎変性すべり症に対するmini ALIF」のタイトルで御講演を賜りました。また、特別講演として私の古い友人でありますインドネシア、スラバヤ市のBambang Prijambodo教授に「Management of Dorsolumbar Spine Trauma」について講演していただきました。ランチョンセミナーは3名の先生にお願いし、米国・フロリダのRichard A. Hynes先生に「Cortical Bone Trajectory」シンガポール総合病院のTan Seang Beng先生に「MIS Spine Surgery - Past, Present and Future」および第47回日本側弯症学会会長の植山和正先生に「空洞を伴う脊髄・脊椎疾患の治療」のタイトルでそれぞれ有意義な御講演を賜りました。

第47回日本側弯症学会との合同シンポジウムでは



図1:中原進之助先生へ感謝状贈呈



図2:第47回日本側弯症学会との合同シンポジウム

「各国における高齢者に対する脊椎インストゥルメンテーション手術の現状と問題点」というテーマで6名のシンポジストによる講演と討論を行いました。シンポジストの先生方は徳橋泰明教授(日大)、Po-Quang Chen教授(台湾)、Nathan Lebowhl先生(米国)、Tian Wei教授(中国)、Tan Seang Beng先生(シンガポール)およびPriyambodo教授(インドネシア)でした。各国それぞれの問題点を提示し今後の脊椎インストゥルメンテーション手術の方向性についての討論は大変有意義なものでした。

総会において、第21回脊椎インストゥルメンテーション学会で最優秀口演賞に選出された金沢大学整形外科の加藤仁志先生と平成24年度のベストペーパー賞に選出されました

千葉大学整形外科の古矢丈雄先生の表彰を行いました。また、第22回本学会の最優秀口演優秀賞は選考委員の採点結果、神戸大学整形外科藤川拓外先生の「頸椎後方再建固定術後C5麻酔発生は予防するか?(頸椎後弯矯正角度の危険域についての検討)」が選出されました。

台風27号が高知へ接近するという悪天候ではありましたが、有料入場者471名、名誉会員・招待者33名および外国人医師17名と統計520名を超える医師

の御参加をいただきました。また、SPINE WEEKとしては全国から述べ800名を超える参加者となり各会場とも活発な討論が展開され活気のある学会となりました。

本学会と関連して開催いたしました「若手医師と看護師のためのセミナー」は、脊椎インストゥルメンテーション手術の基礎と実際、脊椎手術麻酔の実際、脊椎手術における周術期看護(手術室看護を中心に)脊椎手術の合併症と対策の4講演とワークショップを行いました。本セミナーにも90名を超える参加者があり、若手医師のみならず脊椎手術に携わっておられる看護師の皆様からも有意義であったとの評価をいただきました。

最後になりましたが、第22回日本脊椎インストゥルメンテーション学会の開催にあたりましては多くの方々の御協賛をいただきました。おかげさまで演題の取り下げも無く、本学会を無事終了することができました。これもひとえに本学会の先生方の御支援と御協力によるものと心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。今後ともこの学会が益々発展していくことを祈念して御礼のあいさつとさせていただきます。



図3:学会運営に協力して頂いた病院職員とサンブラネットの仲間

「Web症例検討会に参加しませんか」



呼吸器センター呼吸器内科医長 町田 久典

私たち呼吸器センターには、おかげさまで日々の診療で見かけることの多いcommon diseasesから、稀にしか見られない貴重な症例まで、様々な疾患が他院からも御紹介頂けるようになってきました。そしてそれら症例から教えられ、勉強している毎日です。そこでこれら貴重な症例を担当医だけでなく、研修医や学生はもちろん、他のスタッフとも共有することで、より日々の診療に生かせようと考えました。

月に一度、珍しい貴重な症例から、典型的なcommon症例までの中から選りすぐりの症例を、当院で毎月行っている呼吸器疾患カンファレンスで発表し、皆で検討・共有することを考えました。そして検討会に臨むにおいて、当院のホームページの呼吸器センターのサイトに「Web症例検討会」と題して症例を提示する事にしました。

症例の詳細や経過の発表は、毎月の第3木曜日の18時30分から当院の地域医療研修センターで行っている呼吸器疾患カンファレンスに集った研修医やレジデント、また近隣地域の開業医の先生

方の前で、症例を担当した主治医自身が時には質問に答えたり、また逆に質問をしたりしながら提示し、最終診断へ、そして行った治療、その後の経過へと検討会を進行させ行います。最後にはその疾患についての一般的な講義を担当医師が行います。こうして検討会で発表された経過や講義は後日、Web上に症例と共にアップロードし、いつでも閲覧できるように公開しています。

このように、Web症例検討会を通して疾患を体験し、また疾患の講義を今更ながらでも受けることで、学生の皆さんには国家試験対策や知識の積み重ねに、また医師や医療スタッフの方には日々出会う症例等の整理や再考に役立たせて頂ければ幸いです。2012年4月から始めたこの試みも今年で4年目に入ろうとしています。まだまだ検討会への参加人数が少ないですが、Web症例検討会を覗いていただき面白そうと思われた方々の多数の参加を、医師、看護師、学生等問わずお待ちしております。

The screenshot shows the homepage of Kochi University Hospital. A hand icon points to a specific announcement in the 'お知らせ・更新情報' (Notice/Update Information) section. The announcement, dated 2015/01/14, reads: 「呼吸器科のページに、「Web症例検討会」症例28を掲載しました。」 (A case for the 'Web Case Discussion Meeting' was posted on the Respiratory Department page.)

高知病院
ホームページ画面

呼吸器学会中国・四国地方会『後期研修医セッション優秀演題賞』

-高橋直希医師（呼吸器センター）が 受賞しました！-



教育研修部長 篠原 勉

当院は平成16年の「新医師臨床研修制度」の導入時より、基幹型病院として多くの初期/後期研修医を受け入れてきました。当院の研修カリキュラムの特徴は、国立病院機構のネットワークを生かして全国の機構病院への短期留学を取り入れていることと、学会発表や論文作成を積極的に支援していることです。既に内科学会等の初期研修医部門で優秀演題賞を受賞したり、初期研修医の執筆した英文症例報告が雑誌に掲載された実績がありますが、今回新たに、当院呼吸器センターで研修中の高橋直希医師が呼吸器学会中国・四国地方会『後期研修医セッション優秀演題賞』を受賞しました。

当院呼吸器センターは、所属医師が内科系8～9名、外科系3名と呼吸器科医が少ない高知県においては最も充実した施設の一つです。日本呼吸

器学会、日本気管支内視鏡学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器外科学会等から教育病院としての施設認定を受けており、常時、優秀な初期/後期研修医や若手医師が在籍して研修を続けています。今回の高橋医師の受賞は全てのスタッフにとって大変嬉しいことであり、研修医や若手医師は刺激を受けさらに切磋琢磨して研鑽を積まれることと思います。

研修医や若手医師が日常診療の多忙な日々の中で、学会発表の準備や論文を執筆することは決して容易なことではありませんが、臨床医として成長するための極めて重要な経験となるはずです。

高橋医師は既に今回の受賞内容の論文化や新たな発表の準備を進めており、今後のご活躍が期待されます。

平成26年度「できることから始めよう！ 国立病院機構QC活動奨励表彰」で 優秀賞を受賞しました



副看護部長 土居 明美

国立病院機構では、「できることから始めよう！」をスローガンに「国立病院機構QC活動奨励表彰」制度を創設し、医療サービス、経営改善、医療安全のというテーマについて、職員より創意工夫を凝らした取り組みを募集、表彰を行っています。高知病院看護部は、患者満足度調査やご意見箱から頂いた、患者さんからの意見に対し、病棟や看護師長会議で検討し改善策として取組んだ結果を、毎年国立病院機構QC活動に応募しています。

平成26年度は「時間外勤務対策 - 深夜前はすぐカエル - 」が優秀賞を受賞しました。この取り組みは、高知病院が雇用の質を高め、働きがいがあり働きやすい職場となり、仕事と家庭の両立ができ働き続けられるための一つとして、深夜前の日勤で時間外勤務をゼロにすることを目標に看護師長と活動したものです。

取り組みを始めた平成22年度は、①深夜前時間外勤務の回数が多い、②深夜前時間外勤務の時間が長いという状況がありました。そのため、深夜前の日勤のスタッフが時間外勤務をしないように、看護師

長会議で業務内容や業務を調整する時間の検討を行い、対策を継続して実施しました。その結果、病院全体で年間約9500回の深夜勤務がある中で、深夜前時間外勤務の総回数は平成23年度796回から平成25年度は240回に減少し、深夜前時間外勤務の総時間も平成23年度636時間から平成25年度209時間に減らすことができました。この間には、患者数が増え全体的に超過勤務時間が増えたり、電子カルテ導入もあり、改善しない時期もありました。しかし、継続することで平成25年度からは、突発的な事象によりやむを得ない場合を除き、殆どの病棟で深夜前時間外勤務ゼロが可能となっています。さらに、現在は、深夜前の時間年休取得に仕組み、深夜前の時間年休が取得できる病棟が増えてきています。

国立病院機構本部での表彰式に参加した際、受賞理由として「継続的に取り組みを行い成果があったことが良かった。」と言われました。この言葉を励みに今後も働きやすく雇用の質が向上できる病院となるように、深夜前の時間外勤務ゼロを目指し取組みを継続していきたいと考えています。



がんリハビリ研修会を受講して



作業療法士 公文 啓人

10月11、12日に徳島で開催された、がんのリハビリテーション研修会を受講させていただきました。この研修は2010年から新設されたがん患者リハビリテーション料を算定する要件を満たすため、2007年に開始され研修会であり、がんのリハビリテーションにおける基本的な知識、技術の習得を目的としています。

がんは様々な臓器に発生し、がん自体が直接、機能障害を起こすことに加え、手術・化学療法・放射線療法等の治療に伴う障害も多様であることから、がんの特性を考慮したリハビリテーションや治療前から治療後に起こりうる障害を見越した介入が必要であり、病期・状態に合わせた切れ目のないリハビリテーション支援体制が重要となってきます。

本研修ではがん患者の身体状態、リスク管理、チームとしての介入の仕方、家族へのケア等についての講義、他職種でのミニカンファレンスを行いま

した。基本的な知識はもちろんですが、研修の中では特に他職種によるチーム医療が重要視されていたように感じます。前述したように、症状が多様、日によって体調や精神状態が変化することから、臨機応変にプログラムを変更することや、治療方針等を共有することがより一層求められます。情報・目標をしっかりと共有しなければ、ADLのギャップやQOLの低下を招く恐れもあります。

今回の研修で学んだことを、臨床の場面で実践し、がん患者のQOL向上の一助になればと思います。そのためには、今回の研修内容を啓蒙していき、リハビリテーションの重要性や他職種間での意思統一を図り、より質の高いサービスを提供できるよう取り組みも必要となります。同時に、効果や必要性を学会等で発表することで、院外にも発信できるよう取り組んでいきたいと思っています。

職員の異動

採用

一般職員 斉藤 佑介 2014年11月1日付

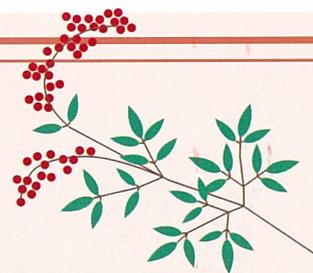
退職

副看護師長

嶋田 麻美 2014年12月31日付

一般職員(給与係)

佐藤 泰成 2014年12月31日付



防火・防災訓練を 実施しました



管理課長 十河 秀樹

災害発生時における院内での情報伝達、初期消火、避難誘導等を円滑に行うこと及び高知県災害拠点病院としての救急患者さんへの対応に万全を期すことを目的とした、防火・防災訓練を平成26年12月11日に実施しました。

当日は、13時30分に南海トラフを震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、高知市では震度7の地震が観測され、地震による人的、物的被害は高知市全域に及び、建築物の崩壊により多数の死傷者が発生するとともに、当院においても3階南病棟で火災が発生したという想定の下に訓練を行いました。

3階南病棟火災発生訓練のアナウンスが流れると、直ちに各職場から職員が病棟に駆けつけて消火活動を行うとともに、模擬患者の避難誘導にあたりました。模擬患者の避難については、大地震によりエレベーターは使用できないため担架やエアストレッチャーにより階段を使っての避難としました。避難に要した時間は徒歩で約4分、担架での避難が約7分でした。エレベーターを使用できない状況にもかかわらず、想像していたより早く感じました。

続いて14時15分からは災害により被災した救急患

者さんが当院に多数運ばれてくることを想定し、外来ホールの待合椅子等を全て片付け、初期トリアージエリア、各治療エリア等を設け訓練を開始しました。

40分頃から様々な症状を想定した模擬患者が次々と来院し、初期トリアージを行う職員、各エリアへ模擬患者を運ぶ職員、各エリアで治療に当たる職員、情報伝達にあたる職員がいる中、看護学生が扮する模擬患者は本当にリアルな傷とリアルな演技により、緊張感のある本番さながらの訓練が行われました。

訓練後の振り返りの中で、参加した職員からは「どう対処してよいか戸惑った。」「積極的に行動できるようにならなければいけないと思った。」といった反省点や今後の課題の意見を多く頂きました。これを踏まえて次回からはよりリアリティーのある、本当の災害が起きた時に的確な行動がとれるような訓練を実施していきたい思います。

最後に、訓練の準備や当日の参加にご協力いただきました皆様に感謝いたします。



栄養管理室より

主任栄養士 永野 由香里



ご出産お祝い膳のご紹介

当院ではご出産されたお母様を心づくしのおもてなしでお祝いしたい、そんな思いから【ご出産お祝い膳】の提供をさせていただいています。

平成18年より提供を開始し、さまざまなご意見をいただきながら患者さんに喜んでいただけるようメニュー考案などに日々取り組んでいます。

ご出産お祝い膳の提供は、月曜日から金曜日の夕食で当院の調理師が心をこめて手作りしたお料理やデザートなどを、お品書きを添えて管理栄養士がベッドサイドまでお持ちしています。

メニューは季節の食材を取り入れ、彩りや盛り付けなどにも配慮しています。

ご出産の記念として、当院での思い出のひとつになれば幸いです。

私たちが心をこめてお届けします(*^_^*)

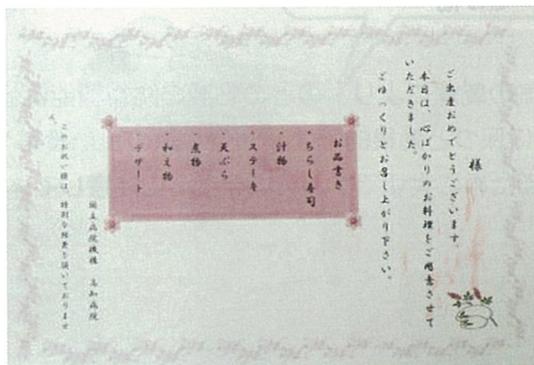


- *ご出産お祝い膳は特別な経費をいただいております。
- *主治医が治療上必要と判断する場合、メニューを一部変更することがあります。

メニュー例



メニュー例



感染管理室だより

冬に感染症が流行しやすい理由



感染管理認定看護師 原 昭恵

本格的な冬がやってきました。空気が乾燥し、気温が低くなる冬季は、感染症がピークを迎える季節でもあります。冬に感染症が流行しやすい理由としては、まず1つに気温と湿度が考えられます。低温・低湿度を好むウイルスにとって、寒く、空気が乾燥する冬は最適な環境です。高温・多湿の夏よりも長く生存できるようになるため、感染力が強くなるのです。

さらに、空気が乾燥していると、せきやくしゃみの飛沫が小さくなり、飛沫に含まれたウイルスが遠くまで飛びやすくなります。そのため、一度のせきやくしゃみによる感染範囲が拡大し、感染スピードも上がります。

また、気温が低くなり体温が下がることで、人の免疫力は低下します。外気の乾燥に加えて、夏場ほど積極的に水分をとらなくなるため、体内の水分量も少なくなりがちです。これら体内外の乾燥によって、本来は粘液でウイルスの侵入を防いでいる鼻やのどの粘膜が傷みやすくなり、ウイルス感染を起こしやすくなるのです。

以下のポイントに注意して冬の感染症を防ぎましょう。

● 手洗い

ウイルスや細菌は多くの場合手を介して感染が拡大するため、こまめに手を洗うことが大切です。外出から帰ったとき、調理前、食事前、トイレの後などには、セッケンをよく泡立てて20～30秒以上かけてていねいに洗いましょう。



● 咳エチケット

咳やくしゃみがある場合はマスクをしましょう。咳やくしゃみをする時は口と鼻をティッシュで覆い、使用したティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手を洗いましょう。



● その他

空気の乾燥により、のどの粘膜の防衛機能は低下します。部屋の湿度は50～60%に保つと効果的です。バランスの良い食事や十分な睡眠は身体の抵抗力を高めるために大切です。日頃の生活に注意して体調を整えましょう。



医療安全管理室だより

医療安全研修の紹介



医療安全管理係長 山本 三恵

当院は医療安全対策加算1の施設基準をとっています。この施設基準の中に医療安全管理体制の確立を目的に全職員を対象とした研修を年2回行うことが法的に定められており、その参加率は80%とされています。

医療安全管理室では、医療安全に関する研修を年度初めに計画を立案し実施しています。研修の方法は集合教育を主としています。しかし、参加率80%を確保するためには、集合教育では限界があり、また、時間内の実施は業務上職員の参加は困難といえます。そして、全職員が興味を持って、参加する意義がある研修が求められています。そこで、昨年度のインシデント内容から、全職員が関係する内容をピックアップし当院のマニュアルを周知してもらうことを考えました。もう一つは安全に向けての活動を各個人が行ううえで、当院のインシデント傾向を知らない対策のとりようがないことから、インシデントの集計、分析内容、改善方法等を研修内容とすることとしました。今回はマニュアル周知研修について紹介いたします。

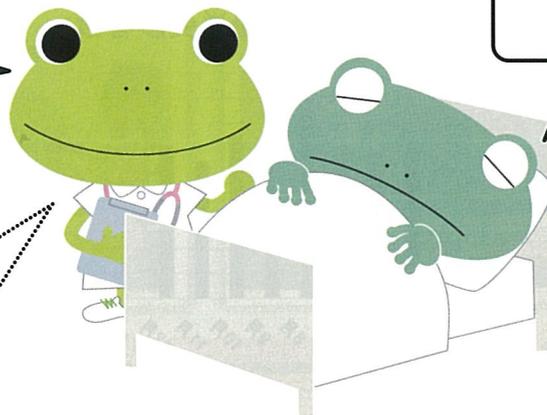
患者誤認によるインシデントは年間10件前後と多くはありません。しかし、患者誤認により引き起こされるインシデントは、患者さんに与える影響が大きいと考え患者確認マニュアルの周知に取り組みま

した。方法としては、当院のマニュアルに沿った患者確認場面をビデオで撮影し、各部署への出前研修としました。まずは各部署でビデオを視聴し、各職場における患者確認場面での問題点を明らかにし、問題点の改善策を職場内で検討します。検討することで、自分たちの行動の振り返りと患者確認行動の意識付けになると考えました。そして、出前研修にしたのは、検討時に共通の問題点を抽出しやすく、行動の振り返りに効果があると判断したからです。この方法により、研修参加率は現在研修が終了している部署では86%となっています。

患者誤認が原因である大きな医療事故が1999年に横浜で起きて（肺手術と心臓手術の患者を取り違えて実施してしまった）から、医療安全に対する重要性が取りざたされています。このように患者間違いは重大な医療事故を引き起こす可能性が高いのです。また、同姓の患者さんや似かよっている名前も多いため、マニュアルでは患者さんに名のってもらい、患者名の照合とID確認を手順化しております。これらを実践に移すため、まずは全職員がマニュアルの内容を知ることが最も大切です。もうすでに、研修を受けられた方も多いと思いますが、正しい医療を提供するためには、患者さんを正しく認識するという基本姿勢を守って頂きたいと切に願います。

お名前を
名のってください

「国立太郎」
ネームバンドの名前と
IDを照合。
患者確認ヨシ!



国立太郎です

地域医療連携室だより

地域医療連携室 看護師長 秋森 容子



一月は行く、二月は逃げる、三月は去ると言われますが、新年が明けたかと思うと慌ただしい日々が続きはや二月です。今、当院では3回目の更新となる病院機能評価一色です。みんなケアプロセスの準備、各種規程、基準・マニュアル見直しと整備、活動実績のデータ整理等々と格闘する日々が続いています。

受審準備するこの過程が、日々の医療や看護を提供するうえで何が大切かを再確認させてくれたり、ケアプロセスの準備でも他部署のコメディカルのどんな介入をしてチーム医療を担っているのかがはっきり見えてきて頼もしく思いました。

さて、2月の第106回高知病診連携フォーラムは、岡村病院 院長 岡村高雄先生をお招きして、『足趾潰瘍の見方・原因・治療について』というテーマでご講演頂きます。血行不良となり足の潰瘍や壊死になってしまったケースは、臨床で多く見かけます。どのような治療とケアが必要なのか専門的なお話を聞くことができます。また、3月は『急性腹症』をテーマに企画しております。是非、この機会に当院のフォーラムにおいでください。



第106回高知病診連携フォーラム

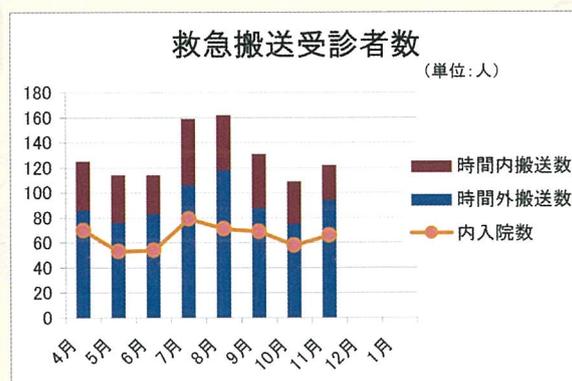
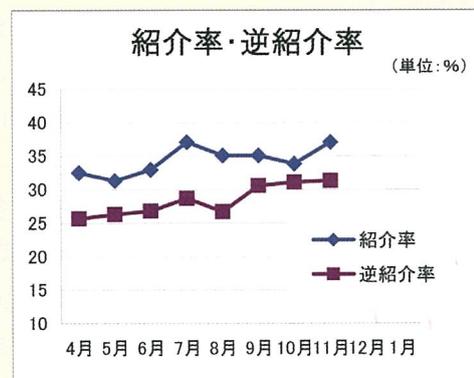
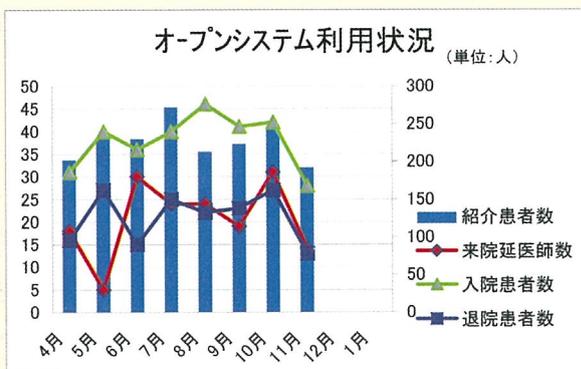
テーマ：『足趾潰瘍の見方・原因・治療について』

講師：岡村病院 院長 岡村高雄先生

日時：平成27年2月25日(水) 18:30~20:00

場所：国立病院機構高知病院 2F地域研修センター

○高知病院地域連携等概況(26年度)



看護学校だより

～第104回看護師国家試験100%合格を目指して!!～



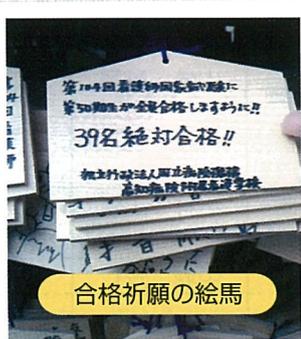
看護学校 教育主事 山田 円

2015年が年明けました。新年を迎えただけで新たな気持ちに切り替えて、目の前のことに向かう力を与えられる気がします。本校の学生1～3年生も心新たに、それぞれが新年のクラス目標を立て、各学年としての総まとめの学習に向かっているところです。

特に3年生第50期生は、2月22日（日）に実施される第104回看護師国家試験まであと30日（1月23日現在）となり、今猛ラストスパートをかけています。不安とプレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、追い込みに頑張っている3年生に対して、私達ができることは、今の努力が確実な結果につながるようにと祈ることのみ!! 本番当日まで体調を崩さず、最後まで諦めずに平常心で臨めるよう、神にもすがりたい思いです。

そして、学問の神様にすがるべく、京都の北野天満宮で39名全員の合格祈願をしてきました。また、先日卒業生第49期生を代表して、戸梶さん（3階南病棟）と和田さん（6階南病棟）が“合格祈願菓子”を届けてくれました。看護師長会の皆様からも温かいメッセージのこもった“伊予かん”をいただきました。また、院内講師の諸先生方には、診療業務等で大変お忙しい中、国家試験対策の特別講義を通してエールを送っていただきました。本当にありがとうございました。その他にも3年生を気にかけて激励の言葉をかけていただき、様々な形で応援して下さいる皆様方に、学生と教職員一同心より感謝し、お礼申し上げます。

看護師国家試験に全員が合格できることを信じて…。 “がんばれ!! 第50期生”



合格祈願の絵馬

学業成就のパワースポット“なで牛”
「頭が冴えわたりますように」

どうか、合格にご縁がありますように…



ビタミンたっぷり、伊予かんパワーで“いい予感”!!

外来診療担当医表

(平成27年2月1日現在)

■受付時間 8:30~11:00

整形外科 火曜日は予約患者のみの診察になります。
(新患、予約のない方は原則診察できません)

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



独立行政法人
国立病院機構 **高知病院**

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
<http://www.hosp.go.jp/~kochihp>



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	午前 1 診	⑫ 村山 典聡	内藤・岡野	井上 修志	板垣・平尾	島山・高橋
	特別外来	⑪ 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後 専門外来			化学物質過敏症(予約制)		
神経内科		⑰ 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	午前 1 診	⑧ 篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	島山 暢生	大串 文隆 (紹介のみ)	岡野 義夫
	2 診	⑥			町田 久典	篠原 勉
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器内科	午前	⑨ 井上・板垣	平尾 章博	板垣 達三	井上 修志	平尾 章博
循環器内科	午前	⑦ 山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後 専門外来				ペースメーカー(第1休曜)	
リウマチ科		⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前 1 診	① 武市 知己	井上 和男	武市 知己	小倉 英郎	井上 和男
	2 診	② 大石 尚文	大石 尚文	井上 和男	大石 尚文	高橋 芳夫
	3 診	③			武市 知己	小倉由紀子
	午後 専門外来	神経・アレルギー (第2月医大循環器)	アレルギー 循環器	乳児検診	アレルギー NICUフォローアップ	神経 乳児検診
	予防接種	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)
外科	午前	⑤ 大塚 敏広	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	小笠原 卓
	午後 専門外来		福山(乳腺外来) 大塚(胃ろう・ヘルニア外来)		日野・福山 乳腺外来	
整形外科	午前	① 篠原 一仁	兼松 次郎	小林 亨	篠原 一仁	土岐 俊一
	午後	土岐 俊一			田村 竜也	
脳神経外科	午前 1 診	⑧ 非常 勤	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁
	2 診					
呼吸器外科	午前	⑦	日野 弘之		日野 弘之	
小児外科	午前	⑤				
皮膚科	午前	⑬ 高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌尿器科	午前	⑨ 渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 亀井(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前	⑳ 滝川 稚也	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	
	午後					
婦人科	午前	⑳ 福家 義雄		小林 文子	滝川 稚也	当番医
		原田 裕子				
眼科	午前	㉓ 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前	⑯ 近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野
	午後 専門外来		14:00~(予約制) 嚥下・睡眠時無呼吸外来			
リハビリテーション科						
放射線科		小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。
※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。